

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 長尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
○	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

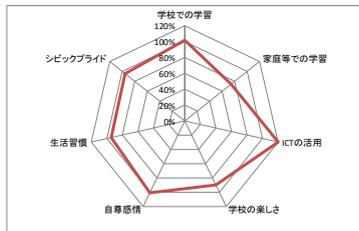
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容から見ると、「書くこと」に関する問題の平均回答率は本市、全国の平均をいずれも上回っている。一方、「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方に関する事項の知識及び技能」に関する問題に課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝えたいことを明確にすることができるかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域別にみると、「数と計算」「データの活用」の領域で課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくてきた問題	直方体の見取り図について理解し、かくことができるかをどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	グラフや表から必要なデータを取り出して、分類整理したり、考察したりすることができるかをみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
・	「授業中、課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいる」「自分で課題を立てて調べたことを発表している」など、授業中、主体的に学習に取り組んでいると答えた児童の割合が全国平均をやや上回っている。
・	ICT機器を授業中の調べ活動や書く活動で活用することができている。全国や北九州市の平均より授業中や家庭学習での使用頻度が高い傾向にある。
・	「自分にはよいところがある」「先生はあなたよりよいところを認めてくれる」と回答した児童が全国平均を上回っている。「北九州市子どもつながりプログラム」の積極的な活用を行い、自尊感情を高められた結果だと考える。
・	全国平均に比べて、毎日朝食をとっている児童の割合がやや低く、家庭でスマートフォンを使っている時間がやや長い傾向がある。
・	平日、土日ともに家庭での学習時間が全国や北九州市の平均を下回っている

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

授業の中で必ず「書く活動」と「伝え合う活動」を行うことを、全教科で取り組む。授業の終末や朝自習、長尾タイムの時間に練習問題に取り組む活動を確保して、基礎学力の定着を図る。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習時間の向上については、宿題や自主学習の取組を工夫していく。また、家庭学習の必要性とともに、生活習慣の見直しについて、懇談会や学年通信、学校だよりなどを通じて、家庭への啓発をしていく。